

在校生送辞

日の光が少しずつあたたかくなり、御書院の桜のつぼみがふくらみ始めた今日の佳き日、諫早高校を卒業される72回生の皆様、ご卒業おめでとうございます。私たち在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

いま、卒業生のみなさまは、新たな旅立ちに喜びを感じるとともに、これまでのたくさんの思い出があふれていることと思います。私たち在校生も、先輩方と共に過ごしたさまざまな思い出が次々と思い浮かんできます。

学校行事では、先輩方の存在の大きさを感じました。体育大会では、準備期間が短い中、最高のものを作ろうとされていました。特に、「時代」をテーマとした「仮装」では、これまでとは違うものにしたい、新しい時代にふさわしいものを創りたいという思いが、強く伝わってきました。素晴らしいパフォーマンスに圧倒され、先輩方の団結力や伝える力をあらためて感じました。先輩方一人一人が笑顔で、キラキラ輝いていたことが印象に残っています。

普段の生活でも先輩方は、たくさんのことを教えてくださいました。進路を実現するために、職員室前で一生懸命学習する姿や、先生に熱心に質問する姿がありました。また、ボランティア活動など校外での活躍もよく私たちの耳に届きました。課題研究では、地域に出向いて取材をしたりアンケートをとったりしながら、解決策を提案されていました。このような活動は、自分の意思が強くないとできないと思います。自分の意思を強く持って、積極的に様々な活動に取り組む姿勢は、私たちの憧れです。

先輩方との思い出の中で最も大切なものは、部活動の日々です。私は陸上部に所属し、先輩方からたくさんのことを学びました。憧れを持って始めた駅伝は、想像以上にきつく逃げ出したくなる時もありました。その時助けてくれたのは先輩方

でした。元気にさせようと声をかけ励ましてくださったことで、踏ん張ることができました。2年生になり後輩ができた今、指導することの大変さ、そして一つ一つにかかる責任の大きさを強く感じています。1年生の時にどれだけ迷惑をかけ、どれだけ助けてもらったのだろう。これから、先輩方に一步でも近づけるよう頑張っていきます。

私が1年生のとき、県高校駅伝で敗れ、都大路の舞台に立つことができませんでした。23年間続いた勝利を途切れさせてしまった。そこには、言葉はなく、悔し涙を見せる先輩方の姿がありました。「来年は絶対に都大路で走ろう」という先輩の一言でチームが一つになりました。1日30キロの走り込みをする夏の合宿。故障で思うように走れない日々。辛いときにも先輩方と想いを一緒にしたからこそ、目標に向かっていくことができました。どの部活動においても、先輩方と共に励んだ日々は、これからも大切なものになることと思います。

学校行事、学習そして部活動。先輩方はいつも強い思いを抱き、無限の可能性を信じて歩いて来られました。「思い」の強い人は、0からのスタートでも努力して少しずつ成長する。たとえ失敗したとしても、その過程が財産となりいつか報われるときが来る。このことを教えてくださった先輩方を見ならい、私たちも目標を思い続けて学校生活を送っていきます。

今日、先輩方は3年間過ごしたこの諫早高校を巣立って行かれます。今まで私たちを支えてくださった先輩方との別れは寂しさに耐えられません。しかし、これまで先輩方が私たちの背中を押してくださったように、私たちも先輩方の背中を押したいと思います。

これから先輩方はそれぞれ違う道を進んで行かれます。その中で、どの方向に進むべきか迷うこともあるかもしれません。現在の変化の激しい社会では、困難な事態が起こることもあると思います。

その時には思い出してください。この諫早高校で、みんなで頑張った日々を。悔し涙も嬉し涙も仲間と分かち合い、目標に向かって立ち上がってきたことを。ぶつかる壁はあっても越えられない壁はありません。この先も、力強く、未来を切り拓いていく先輩方を、私たち在校生一同、諫早高校から応援しています。

名残はつきませんが、別れの時間が迫ってまいりました。最後になりましたが、卒業生のみなさまのますますのご活躍とご健康をお祈りし、送辞といたします。

令和二年三月一日

在校生代表 戸村文音